

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分  
 【発行日】平成 28 年 9 月 1 日 (2016.9.1)

【公表番号】特表 2016-521856 (P2016-521856A)  
 【公表日】平成 28 年 7 月 25 日 (2016.7.25)  
 【年通号数】公開・登録公報 2016-044  
 【出願番号】特願 2016-518967 (P2016-518967)  
 【国際特許分類】

G 0 1 N 35/02 (2006.01)

G 0 1 N 27/327 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 35/02 A

G 0 1 N 27/327 3 5 3 Z

【手続補正書】  
 【提出日】平成 28 年 2 月 17 日 (2016.2.17)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

体液中の少なくとも 1 つの分析物を検出するための試験要素 (112) を產生するための方法であって、該試験要素 (112) が分析物の存在下で少なくとも 1 つの検出反応を実行するように適応された少なくとも 1 つの試験化学薬品 (142) を有し、該方法が以下の工程：

a) 連続支持体テープ (116) を提供し、該連続支持体テープ (116) が該連続支持体テープ (116) の伸張方向 (130) に対して平行な輸送方向 (124) で輸送される、輸送工程；

b) 液体接着剤 (128) およびスロットコーティングプロセスを用いることによって、少なくとも 1 つの連続接着性ストリップ (154) が前記連続支持体テープ (116) に適用され、該連続接着性ストリップ (154) が前記輸送方向 (124) に対して平行に配向される、接着剤適用工程、ここで、該液体接着剤 (128) が液体型で提供され、該液体接着剤 (128) が 1 またはそれより多い溶媒を含む；

c) 少なくとも 1 つのカバー要素 (134) が前記連続接着ストリップ (154) に適用され、それによって該カバー要素 (134) が前記連続支持体テープ (116) に固定される、カバー要素適用工程；および

d) 連続支持体テープ (116) が単一試験要素 (112) に個別化される、個別化工程を含み、

ここで、前記方法が少なくとも 1 つの乾燥工程をさらに含み、前記連続接着性ストリップ (154) が乾燥工程において少なくとも部分的に乾燥される、  
 前記方法。

【請求項 2】

前記乾燥工程が：前記接着性ストリップ (154) の加熱；熱いガスに対する前記接着性ストリップ (154) の曝露；電磁放射に対する前記接着性ストリップ (154) の曝露の少なくとも 1 つを含む、請求項 1 記載の方法。

【請求項 3】

前記液体接着剤（１２８）がアクリル性液体接着剤である、請求項１または２記載の方法。

【請求項４】

前記液体接着剤（１２８）が水に基づく液体接着剤である、請求項１～３の一項に記載の方法。

【請求項５】

前記試験化学薬品（１４２）を少なくとも１つの前記連続支持体テープ（１１６）および前記カバー要素（１３４）に適用する工程をさらに含む、請求項１～４の一項に記載の方法。

【請求項６】

前記連続接着性ストリップ（１５４）が前記輸送方向（１２４）に対して垂直な５ｍｍ未満の幅を有する、請求項１～５の一項に記載の方法。

【請求項７】

少なくとも２つの連続接着性ストリップ（１５４）を前記連続支持体テープ（１１６）に適用する、請求項１～６の一項に記載の方法。

【請求項８】

前記連続支持体テープ（１１６）が柔軟なテープである、請求項１～７の一項に記載の方法。

【請求項９】

前記連続支持体テープ（１１６）がプラスチックテープを含む、請求項１～８の一項に記載の方法。

【請求項１０】

前記カバー要素（１３４）が、前記支持体テープの伸張方向（１３０）で連続性である連続カバー要素（１３４）である、請求項１～９の一項に記載の方法。

【請求項１１】

前記液体接着剤（１２８）が２０ｍＰａｓ～１００００ｍＰａｓの粘性を有する、請求項１～１０の一項に記載の方法。

【請求項１２】

前記カバー要素（１３４）が前記連続接着性ストリップ（１５４）上にプレスされる、請求項１～１１の一項に記載の方法。

【請求項１３】

前記連続接着性ストリップ（１５４）の表面に、少なくとも１つの界面活性剤を適用する少なくとも１つの工程をさらに含む、請求項１～１２の一項に記載の方法。

【請求項１４】

前記連続接着性ストリップ（１５４）に少なくとも１つの連続ライナーを適用する工程をさらに含み、該連続ライナーが、少なくとも１つのカバー要素（１３４）を該連続接着性ストリップ（１５４）に適用する前に除去される、請求項１～１３の一項に記載の方法。

【請求項１５】

体液中の少なくとも１つの分析物を検出するための試験要素（１１２）を産生するための産生デバイスであって、該試験要素（１１２）が、分析物の存在下で、少なくとも１つの検出反応を実行するように適応された少なくとも１つの試験化学薬品（１４２）を有し、該産生デバイスが：

Ⅰ．連続支持体テープ（１１６）を提供するために適応されたテープ輸送デバイスであって、該連続支持体テープ（１１６）を該連続支持体テープ（１１６）の伸張方向（１３０）に対して平行な輸送方向（１２４）で輸送するように適応された、前記テープ輸送デバイス；

Ⅱ．液体接着剤（１２８）およびスロットコーティングプロセスを用いることによって、少なくとも１つの連続接着性ストリップ（１５４）を前記連続支持体テープ（１１６）に適用するために適応され、該連続接着性ストリップ（１５４）が前記輸送方向（１２

4) に対して平行に配向された、接着剤適用デバイス、ここで該液体接着剤(128)は液体型で供給され、ここで該液体接着剤(128)は1またはそれより多い溶媒を含む；

III. 少なくとも1つのカバー要素(134)を前記連続接着性ストリップ(154)に適用し、それによってカバー該要素を前記連続支持体テープ(116)に固定するために適応された、カバー要素適用デバイス(132)；

IV. 前記連続支持体テープ(116)を単一試験要素(112)に個別化するために適応された、個別化デバイス(138)；および

V. 前記連続接着性ストリップ(154)を少なくとも部分的に乾燥させるように設定された、少なくとも1つの乾燥デバイス(170)  
を含む、前記産生デバイス。

【請求項16】

前記乾燥デバイス(170)が：前記接着性ストリップ(154)の加熱；熱いガスに対する前記接着性ストリップ(154)の曝露；電磁放射に対する前記接着性ストリップ(154)の曝露の少なくとも1つによって、該連続接着性ストリップ(154)を少なくとも部分的に乾燥させるように設定された、請求項15記載の産生デバイス。

【請求項17】

少なくとも1つの試験化学薬品適用デバイス(140)をさらに含み、該試験化学薬品適用デバイス(140)が、前記連続支持体テープ(116)および前記カバー要素(134)の少なくとも1つに、少なくとも1つの試験化学薬品(142)を適用するように適応された、請求項15または16記載の産生デバイス。

【請求項18】

前記液体型が：溶液；エマルジョン；分散物からなる群より選択される少なくとも1つの型を含む、請求項1記載の方法。

【請求項19】

前記電磁放射が紫外スペクトル範囲にある、請求項2記載の方法。

【請求項20】

前記水に基づく液体接着剤が水性エマルジョンである、請求項4記載の方法。

【請求項21】

前記界面活性剤が親水性界面活性剤である、請求項13記載の方法。

【請求項22】

前記液体型が：溶液；エマルジョン；分散物からなる群より選択される少なくとも1つの型を含む、請求項15記載の産生デバイス。

【請求項23】

前記電磁放射が紫外スペクトル範囲にある、請求項16記載の産生デバイス。